



▲傘やアジサイのバルーンアートで飾られた公民館ロビーは、柔らかな明かりのもとコンサート会場に様変わり

公民館で心安らく音楽を 必佐公民館でロビーコンサート

6月18日(土)、必佐公民館で梅雨
overロビーコンサートが開催さ
れました。

昨年の地区文化祭でのコンサート
をきっかけに、バレンタインデーや
クリスマスに続いて3回目のコンサ
ートとなりました。オカリナサークル
や町内外のアマチュアバンドが出演。
懐かしい歌や演奏に、観客の皆さん
はリズムをとりながら聞き入って
おられました。

会場では、社会福祉協議会の社会
人ボランティア講座修了生によるコー
ヒー入隊「まつぼっくり」の皆さん
が喫茶コーナーを設けられました。

クラシック音楽の楽しさを伝える 町内小学校にプロの音楽家が訪問

6月22日(水)から24日(金)までの
3日間、プロの弦楽奏者で構成され
た「カルテットひかり」の皆さんが、
町内の各小学校を訪れ、バイオリン、
ヴィオラ、チェロの生演奏を児童に
届けられました。

この事業は、日野町文化振興事業
団と財団法人地域創造との協力によ
り、実現したものです。

児童たちは、音楽家と間近で触れ
合い、楽器による響きの違いや曲か
ら想像することの楽しさなどを体感
していました。

最後は、弦楽四重奏で校歌を演奏
され、児童たちの歌声と響き合いま
した。



▲ラヴェルが作曲した弦楽四重奏曲を、目を閉じて聴いて
想像の世界を膨らませました



▲畑で日野菜収穫体験。「日野菜の赤色部分は中も赤
いのですか？」との質問に、「白いです」との答え

日野菜の取り組み、学びに来ました！ 農と食のコーディネーター養成講座

6月25日(土)、こだわり滋養ネッ
トワーク主催の生産者と消費者をつ
なぐ活動に取り組む人材を育成する
ための「農と食のコーディネーター
養成講座」が行われ、22名の参加者
が、日野菜の生産地である鎌掛を訪
れました。

J Aグリーン近江日野菜生産部会
の方々が地域で広がる日野菜栽培や
ホテルへの営業活動など、さまざま
な取り組みを紹介されました。漬け
物工場で加工状況を見学され、昼食
は日野菜漬けと地産地消「かますけ
工房」のお弁当を堪能されました。
昼食をとりながら、後継者問題な
どが話題になっていました。



▲さまざまな資源が集まるドーム内。テントには東京ドームと同じ素材が用いられ、外よりは涼しい中で作業

町の資源回収の拠点に わたむきの里エコドーム完成

上野田にあるわたむきの里作業所にこみの減量化や再資源化を目的とした資源回収ステーション「わたむきの里エコドーム」が完成し、7月1日(金)から利用が開始されました。以前から、資源回収に取り組み続けていたわたむきの里作業所は、町のリサイクルセンターの拠点となるよう、また、障がいのある方と利用される方のふれあいの場となるよう、滋賀県で初めてこのような取り組みをされました。

初日には、100人もの方が持ち込みに訪れました。

年に一度 七夕の日のおくりもの そば工房あべいの皆さんがさくらの里へ

7月7日(木)、そば工房あべいの皆さんが、さくらの里を訪れ、利用者の皆さんの前で手打ちそばの実演をされました。

そば工房あべい(会員9名)は、平成16年から活動を開始。今もなおより良いそばを打つために研究を積み重ねられています。

今回、さくらの里を訪問されたのは、昨年に続いて2回目。七夕の日、利用者の皆さんに手打ちそばを届けられたらと始められました。

利用者の方は、「おいしいです」と、心のこもった手打ちそばを堪能されていました。



▲手際よくそばを打つ皆さん



▲出来たてのそばを堪能

熱き志のインドネシア高校生と心の交流 21世紀東アジア青少年大交流計画・農村生活体験受入

7月9日(土)、10日(日)の2日間、日本政府主催「21世紀東アジア青少年大交流計画」(日本滞在9日間)で、インドネシアの高校生ら28名が来町されました。

高校生らは、近江日野商人館見学、街中散策、日野祭囃子体験の後、8軒の受入家庭のもとで、農村生活体験をされました。

最後の歓送会では、受入家庭への感謝の気持ちを込めた母国の愛唱歌や舞踊が披露され、会場はインドネシアの雰囲気にも包まれました。

高校生や受入家庭の方が、別れ際に涙や抱擁する姿が見られ、感動のうちに農村生活体験が終わりました。



▲受入家庭との対面式にて日野祭囃子の練習を披露

▲受入家庭との交流の様子